

サッカーの漫画を描きたい

あのとき私は、試行錯誤しこうさくごの中で、当時ほとんど取り上げられていなかったサッカーの漫画まんがを描くことを決意した。大空翼おおぞらつばとの出会い……。あれから三十年以上、翼と一緒に夢を追い続けている。

一九六〇（昭和三十五）年、日本で初めてオリンピックが開催かいさいされる四年前に、東京都葛飾区で私は生まれた。小さな頃から絵を描くのが好きで、自作の漫画まんがを描いては友達に見せていた。中学生のときは、（将来、絵を描く職業に就けたらいいな。）となんとなく思っていた。

その一方で、スポーツにも熱中した。高校では野球部に入部し、野球に明け暮れる生活が続いた。大学に進学しても、このまま野球を続けていこうと思っていたが、高校二年生の秋に転機が訪れた。母から、経済的な理由で私立大学への進学は難しいと聞かされた。

「どうしても大学に行きたいのなら、私が働いてなんとかするから。」

この母の言葉をきっかけに、私は、自分は何がしたいのかを考えるようになった。「進学して大学生活を楽しみたい。」「絵を描く職業に就きたい。」「親に経済的な負担をかけたくない。」といった思いが入り交じっていた。しかし、自分と真剣しんけんに向き合ってみると、「プロの漫画家になりたい。」という気持ちだが、何よりも強いことがわかった。

「今から漫画家をめざそう。」

高校三年生の春、私はそう決意した。

それからは、無我夢中むがむちゆうで漫画を描いた。大学受験のため勉強に力を入れる友人が多いなか、私は（もうあと戻りできない。）と、漫画を描いては出版社に持ち込む日々が続いた。すぐによい評価が出るわけがなく、何度も何度も描き直した。

この地道な努力が実り、高校の卒業間近に、少年漫画誌に応募した作品が新人賞の佳作に輝いた。プロの漫画家をめざす者にとっての出発点に立てた喜びは、今でも鮮明せんめいに覚えている。

しかし、佳作をとったからといって、すぐにプロになれるほど漫画家の世界は甘くない。高校卒業後は、工場などでアルバイトをしながら漫画を描き続けた。稼いだお金は、漫画を描く道具代であつという間に消えていった。

そうした努力が認められ、しばらくして、プロの漫画家のアシスタントとして採用された。自立できたことがうれしかった。ただ、アシスタントの仕事は漫画を描く勉強にはなったが、自分の漫画を描く時間を奪っていった。

（自分の漫画を描き進めなければ、プロとして独り立ちできない。）

私は仕事を続けながら、歯を食いしばって自分の漫画を描いては出版社に持ち込んだ。当時の生

活は苦しく、電車賃を節約するために、出版社まで片道一時間以上かけて自転車を通った。

自分の漫画は、仕事が終わったあとに描き始めるため、一本の作品に三〜四か月かかる。新人漫画家発掘のコンテストに応募しても、いつも佳作止まりだった。

(どんな作品を描けばよいのだろう。本当に漫画家としてデビューできるのか……。) という不安が頭をよぎった。私にとって、厳しい試練のときが続いた。

新たな題材、新たな主人公、新たなストーリー。試行錯誤を繰り返して、十九歳のとき、五本目の作品で初めて「入選」を手にした。この作品が『キャプテン翼』の原点であり、デビューへの道がようやく開けたのだった。

当時、スポーツ漫画といえば野球が全盛で、「サッカー漫画はヒットしない。」といわれていた。Jリーグ発足の十二年も前で、日本がワールドカップに出場することなど夢のまた夢の時代だった。私は、参考となる作品が少ないからこそ、逆にオリジナリティを出そうと考えた。野球は、打順が回ってこなければ打席に立たないが、サッカーは九十分間、自分の判断で自由にグラウンドを駆け回って勝負することができる。その自由な空間を表現してみようと考えた。

だが、プロの世界は想像以上に厳しい。週刊誌の連載は作品の人気順位が毎週発表され、下位の作品は連載が打ち切られる。デビュー間もない私にも、連載打ち切りの危機が迫りつつあった。(どうすればいい……。)

締め切りまで、もう時間はない。私は悩んだ末に、翼に夢を託すことにした。ほとんど描き終えていた第四話を描き直し、翼に「オーバーヘッドキック」の技を披露させたのだ。すると、人気順位がじよじよに上昇し、翼がライバルと対決する「南葛小対 修哲小」までをどうにか描き切ることができた。ほっとしたとともに、漫画家としての自信が生まれたときでもあった。

私の代表作『キャプテン翼』を読んで、プロのサッカー選手になる夢をもち実現した選手が、日本国内だけでなく、海外にもおおぜいいると耳にする。もはや、世界中の子どもたちにとって翼の活躍は憧れとなり、めざす夢の対象となっているのだ。サッカー漫画を描いてきた私にとって、これ以上の喜びはない。

「ゴール！ ニッポン、大空翼の同点ゴール！ 優勝の行方はまだわかりません！」

大空翼には、大きな夢がある。そう、日本代表選手としてワールドカップに出場し、優勝すること。その夢の実現に向かって、翼はこれからも努力し続ける。私も大空翼とともに、これからも努力し続けていきたい。